

令和2年度第1回京都府認知症疾患医療センター連携協議会
摘 録

- 日 時 令和2年6月29日（月）16：30～18：15
- 会 場 京都府医師会館 310会議室
- 出席者 別紙のとおり
- 内 容

1 開会

定刻により、事務局が開会を宣言。委員長代理として京都府健康福祉部副部長が挨拶。

2 報告事項

○京都府の認知症施策について

- 資料1について京都府高齢者支援課から説明

3 意見交換

令和元年度活動実績について

- 資料2に基づき意見交換

（認知症ケア加算1の開始について）

＜主な意見＞

- ・これまで専門医と相談しながら準備を進めていた。精神科の医師がいないため、神経内科医や臨床心理士が関わる認知症サポートチームを立ち上げ、できるだけ身体拘束なくケアできるよう調整した
- ・薬剤のアドバイザーとして認知症の処方（認知症薬の処方。薬剤調整）を伝えているが、あまり進展はない。今後はより浸透するよう進めていきたい

（診察までの待機期間の長期化について）

＜主な意見＞

- ・通常は遅くとも1ヶ月程度だったが、新型コロナウイルスの影響で現在は2、3ヶ月待ち
- ・コロナ対策で一旦外来を閉めた関係で、現在は9月中旬から予約可能。そうであれば別の病院に相談する、という声もある
- ・現状の待ち時間は1ヶ月くらい
- ・今年度当初は医師が1名減となり初診の枠が減ったが、新たな担当が決まり3ヶ月待つということはなくなった

令和2年度事業計画について

■資料3について各センターから報告し、意見交換

(コロナウイルスの影響及び対応)

<主な意見>

- ・院外からの来院を制限中
- ・鑑別診断は通常どおり実施中。5月以前は件数減だったが、6月中旬以降に予約が入り出し、件数も上がってきた。ただし、予約があってもキャンセルすることや、ご家族のみの相談に留まる等の制限もある
- ・4月頭、病院を2週間休止。その間、疾患医療センターに関しては電話相談のみで対応。外来で急ぎの場合は別の医療機関を紹介し、そうでなければ2週間後に予約を受け付けていた。一時的に件数は減っていたが、現在は持ち直している
- ・3月中旬から外来を止めていたが、6月から待機されていた方に順次声をかけて再開
- ・通常ならソーシャルワーカーが事前に聴取を行うが、滞在時間を短くするため、可能な限り電話で聴取するように変更
- ・新規の方は通常2名対応だが、現在は1名で対応する
- ・認知症に限らず、入院される方の受け入れを制限中。最低2週間、発熱または呼吸器の症状がないか確認している
- ・新規の受診予約で急ぎのもの以外は4月上旬から6月まで受付を停止。その間、電話相談で対応していたが、電話件数自体が減少。受診希望も月に数件あるかないかといった状況だった。
再開は7月からで、延期していた十数件を含めて8月後半まで予約が埋まっている
- ・外来の受付は通常どおり。ただし、予約時に感染症対策のチェックリストを確認し、クリアした方のみ受付ける
- ・5月中は予約が減っていたため待機なく対応できていた。6月以降は通常どおりで、現在は2週間待ち
- ・感染防止対策の観点から、陽性もしくは濃厚接触者の可能性がある方の入院は控えてもらっている。外来で対応し、薬剤調製等で対処
- ・センターへの相談件数は自粛のためか5月は減少したが、6月からは普段どおり
- ・外来患者、新規は減少していたが、また戻ってきている
- ・外来は通常どおり。ただし、総合内科診療（初診外来）で受付け、その際に自己申告だが発熱等の状態を確認。厳密なコロナ専用窓口はなく、発熱の方は別室で待機させる
- ・外来は通常どおり開いていたが件数は減った。心配して予約日をずらす人もいた
- ・車で来られた方は車で待機してもらい順番が来たら電話呼び出しを行う等、院内が混まないように工夫。また、病院の入り口で消毒の徹底やマスクの着用、発熱状況の確認をしてから院内に入ってもらっている
- ・家族の方が感染拡大地域から来られた場合など、濃厚接触者と分かった方は院内に入ってもらわないようにしていた。そういう場合は電話により対応

(認知症疾患医療連携協議会)

<主な意見>

- ・実施を検討中。しかし、3月に医療・介護福祉関係者研修が中止となってからは全てが未定
- ・8月に実施予定。計画書から内容変更し、コロナ状況下における支援のあり方についてを話し合う
- ・7月に実施予定。スペースを確保するため会場を変更
- ・事業実績・計画の他に、若年性認知症の方への支援をテーマに7月に開催予定

(本人・家族教室)

<主な意見>

- ・実施計画を練っていたが、コロナの感染防止・予防の観点から会議が禁止されているため未定
- ・昨年度3月、本人家族教室ではなく市民公開講座として試行的に開催を予定していたが、コロナ禍のため中止。改めて9月に予定したが、市と相談のうえ時期的に不可能と判断し見送った。再度協議しながら検討していく
- ・6月実施で調整していたが中止に。現在は秋以降で開催を検討中
- ・本人・家族教室は昨年度から着手。一定の効果を認め、今年度は2ヶ月に1回で実施しようとしていたが、感染症予防の観点から中止している
- ・コロナ禍により中止している。再開は状況を見て
- ・未実施だが、教室とは別の形態で実施できればと思う
- ・昨年度3回目がコロナにより中止になった。今年度は春頃から実施したかったがコロナで延期となり、10月から医師、薬剤師、臨床心理士を講師に3回実施する計画に変更。現在はチラシを対象者に渡しているところ。コロナが再流行すれば中止になるかもしれない

(初期集中支援チーム)

<主な意見>

- ・4月にチームが集まる機会を設け、今年度の事業計画を話し合った。感染症の終息時期が不明のため、再開は秋以降になるのではないかと意見あり。なお、これ以降チーム員会議は休止している
- ・チームは人数を縮小し実施中
- ・4、5月は書面で相談に対応。6月は人数制限のうえ直接対応
- ・書面对応は苦肉の策。効果は通常より劣る
- ・滞りなく実施中。3月は院内で会議ができず、別会場で実施した。5月以降はZoomで各チームが実施している。また、6月には新規の方がいたので、現在医師とともに対応中
- ・Zoomを使用。滞りなく実施できた
- ・4～6月と中止。その間、地域包括の方で個別に対応していた

(その他)

<主な意見>

- ・会議、研修はのきなみ休止中。認知症カフェは9月から再開予定
- ・Zoomによる会議も特に普段と変わらず行えた
- ・周囲の介護施設からの受け入れの場合は、依頼があればチェックリストを確認し外来へ。
- ・65歳以上の方の場合は、診察前に胸部CTと採血を行い、内科医師が認めれば受け入れ
- ・毎年行っていたセンター主催のセミナーがコロナのため中止に。今後は様子を見つつ検討
- ・当院医師が参加する認知症カフェは8月から再開予定。その他、地域主催のものは再開・未開催・形態変更と対応がばらついている
- ・昨年度延期した若年性の研修を今年度は実施する予定。対象者は多職種に及び、人数も多いので、どんな形でやるか前向きな形で考える

4 その他

新型コロナウイルス関連の京都府の対応について

■資料6、7、8、9に基づき京都府高齢者支援課から説明。

その後、意見交換。

(その他)

- ・介護施設でクラスターが発生した場合どうするか、具体的な解決策は未定。DMATの派遣は一つの案ではあるが、実際に感染症が発生している場所へ応援を派遣することは難しい、との声もある
- ・実際に介護施設で感染が疑われれば、専門家によるサポートチームを現地に派遣し、必要な対策及び職員の教育を実施
- ・各施設では感染症対策マニュアルを策定してもらっているが、コロナウイルスに対応していないものもある。マニュアルの整備や研修等を進めていく必要がある
- ・施設でクラスターが発生した場合の対応を各センターで考えておかないといけない
- ・本協議会について、次回はオンライン会議の実施について検討

以上